

第57回全国学童保育研究集会レポート

【クラブ】(たけのこクラブ) 【名前】(米本美紀) 【立場】(保護者 or 指導員)

① 午後に参加した分科会の名称をお書きください。

第(2)分科会-⑤ 名称(高学年にとっての学童保育)

② 全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

今回この分科会を選んだ理由として、高学年の子どもにとって居心地のいい居場所にしてほしいと思い、他の学童では高学年に対してどんな配慮があるのだろうと思いこの分科会を選びました。

分科会では特に講師がいてお話しを聞くという感じではなく、実践報告から質疑応答に入り、高学年の生活スタイルや反抗的な高学年に対しての声掛けだっりの意見交換のグループワークでした。事前に発表者も決まっています、進行役も一番指導員歴の長い方とされていたので、トークルームに入ってからでも沈黙という無駄な時間もなく、スムーズに入れたので沢山の交流ができ、とても充実した時間でした。

どうしても、高学年と低学年では手の掛かり方も違うため関わりが減ってしまっている中で、指導員との関わりを拒否したり、暴言を吐くなど何を思って学童にきているのだろうか？学童って高学年にとって楽しい場所なのか？という交流の時間になりました。

高学年って難しいという指導員はいい意味でも全員同意見でした。

男性指導員は、思春期の女の子との関わり方、声掛けに戸惑う場面もある。また、女性指導員も同じで男の子との会話のキャッチボールが出来ず悩みどう関わっていいのか、わからない時もあるという意見がでました。特に新人指導員とは会話すらしてもらえない事や存在すら認めてもらえないと悩む指導員の方もいました。

低学年の時はグイグイと関わり高学年になるにつれ、さみしいですが程よい距離感を保ってあげることも大切だと思いました。言葉はなくてもただ隣に来てくれる高学年もいます。言葉数は少なくなってきても、それでも学童に帰ってきてくれる高学年、居てくれるだけ十分、帰ってきてくれるだけで十分、隣に黙って座ってくれるだけでも十分。でも、忘れてはいけないのは、高学年はどういう思いで来所してくれるのか？また、どうゆう居場所になっているのか？

これだけは常に考え、高学年も楽しく、居心地のよい場所にするために考えなければいけないと改めて感じることでできた分科会となりました。

※このレポートは、参加されたすべての保護者と指導員にご提出をお願いしています。

※文字数の制限はありません。この用紙に手書きでもかまいませんし、データでお送りいただいてもかまいません。

※指導員に手渡し、または、こちらのアドレス okazakigakudou@yahoo.co.jp にお送りください。

※ご提出されたレポートは、当会のホームページや岡崎がくどうの会だより「よりどころ」に掲載する予定です。